ISSN　0915－6925

大学アーカイヴズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2016.10.31　No.55

Japan Association of College and University Archives ： Eastern Japan Division

目　　次

・谷口　　綾「第 99 回全国大学史資料協議会東日本部会研究会に参加して」…… 1
・渡邉　　卓「東京農業大学の施設見学―「実学主義」の歴史に触れる―」…… 3
・永藤　欣久「帝京大学総合博物館を見学して」 …… 4
・全国大学史資料協議会東日本部会 2016 年度総会議事録 …… 6
・全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録 …… 11
・全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録 …… 16

2016 年 3 月 10 日（木）　研究会

第 99 回全国大学史資料協議会東日本部会研究会に参加して

日本体育大学 図書館課 日体史料室　谷口　綾

はじめに

2016 年 3 月 10 日、第 99 回全国大学史資料協議会東日本部会研究会が、明治大学の生田キャンパスにて開催された。今回は、明治大学平和教育登戸研究所資料館（以下、資料館と略称）に関する報告と、資料館の見学・キャンパス内の史跡めぐりが行われた。以下、当日の報告を中心に、資料館の概要と見学内容についてまとめておきたい。

1．登戸研究所と明治大学、そして資料館

見学に先立ち、資料館館長の山田朗氏から「明治大学平和教育登戸研究所資料館―設立の経緯と活動・運営の特徴―」と題して、登戸研究所の概要、資料館設立の経緯から現状までをお話しいただいた。

登戸研究所は、秘密戦の兵器・資材を研究開発する旧陸軍の専門機関で、1937 年 11 月に現川崎市生田の地に設置された。開設当初は実験場であったが、次第に施設の機能が拡充され、特殊兵器や生物化学兵器の開発、偽札の製造を手がけるに至る。しかし、1945 年の敗戦をうけて組織は解体。研究所跡地は、慶應義塾大学、北里研究所、巴川製紙に利用された。

こうした状況の中、明治大学は、慶應義塾大学から跡地の払下げをうけて 1950 年 5 月に生田キャンパスを開設、翌年に農学部を移転させた。研究所施設は長らく農学部の校舎として利用されたが、1970 年以降のキャンパス整備によってそのほとんどが取り壊された。

校舎の改修が進む一方、学外では研究所の実態解明に向けたとりくみが進められていた。市民や高校生の調査活動、元所員たちの行動が、研究所の知られざる実態を明らかにし、やがて戦争遺跡の保存・活用に向けた資料館の建設を大学に促すことになる。

明治大学は、2008 年に旧登戸研究所第二科の実験棟（旧 36 号棟）を資料館に転用することを決定し、2010 年 3 月に「明治大学平和教育登戸研究所資料館」としてオープンさせた。こうして資料館と関連史跡全体が、戦争遺跡として保存されることになったのである。

開館から 6 年目を迎えた現在、来館者はおよそ 50,000 名。学芸員 3 名とアルバイト 1 名の体制で常設展や企画展を実施する。研究所跡地をめぐる見学会、講演や解説会、ワークショップが定期的に行われ、資料館は学生や社会人向けの共通講座にも利用される。館報やニューズレターの発行、資料の受け入れや調査も並行して行われ、大学博物館と同様に経営努力も図られる。

資料館は、歴史・平和教育だけでなく、科学教育の発信地としての在りかたを目指すという。そして、市民や教育関係者と連携した活動を今後も展開していく、として報告は締めくくられた。

2．見学ツアー

＜明治大学平和教育登戸研究所資料館＞

常設展

第 1 展示室では、展示の導入として、設立の経緯や組織体制、規模や役割といった登戸研究所の全体像を紹介する。第 2 展示室では、「風船爆弾」を中心に、第一科で行われた研究開発の様子を展示する。第 3 展示室では、第二科をとりあげ、史料から明らかとなるセクションの役割や周辺組織とのかかわりを伝える。第 4 展示室では、関係者の証言や研究成果をもとに第三科の活動を再現し、戦局に与えた影響に触れる。第 5 展示室では、研究所の機能疎開や敗戦後の動向をたどり、やがて資料館として生まれ変わる研究所の戦後をとりあげる。

参加者に解説する山田朗氏

秘密戦に関する史資料もさることながら、補助資料を使用して各科の活動を視覚的に再現した展示内容に驚かされた。史実発掘の過程も盛り込まれており、市民要請型ともいえる館の特徴がうまくあらわされた展示でもあった。

第 6 回企画展

「NOBORITO1945 ―登戸研究所 70 年前の真実―」

資料館では、展示の充実と研究成果の公表を図るため、企画展示を実施している。本展は、終戦から 70 年後となる 2015 年 8 月 15 日から始まり、2016 年 3 月 26 日まで開催された。第 1 期では 1945 年 8 月 15 日までの登戸研究所の活動を、第 2 期では敗戦後の研究所と所員の動向をとりあげる。なお、会期中には、講演会（3 回）、展示解説会（3 回）、研究所関係者による証言会が

組まれている。

企画展示は館内ロビーを利用して行われており、常設展示とあわせて内容を通観できるよう工夫されていた。ここで新たな資料を公開するほか、調査成果を反映したパネルやレプリカが揃えられ、限られた空間を活かした展示が行われていた。

＜生田キャンパス史跡めぐり＞

生田キャンパスには、旧 36 号棟のほかにも、登戸研究所に関連する史跡が残されている。弥心神社（現生田神社）、動物慰霊碑、消火栓、弾薬庫、暗室、これらは新しい校舎の中にひっそりと点在しており、中には見落とされがちなものもある。資料館では、定期的に見学会を企画するなどして史跡の保存と周知のための努力を続けている。

むすびにかえて

昨年度は、大学史研究や大学の各方面で、15 年戦争に関する研究会や展示会が数多く企画・実施された。このたびの内容はその締めくくりにふさわしく、充実した時間を過ごすことができた。資料館設立に向かわせた市民の活動、それを受けた大学の英断。館をめぐる一連の経緯に、この地域特有の歴史認識がみえたように思う。

本学は、専門学校時代にかの大戦を経験し、体育・スポーツの世界もまた従戦の姿勢を余儀なくされた。日体史料室でも、こうした記録を自校の一部として蒐集・整理・保存し、本学の掲げる平和教育のための一助としていきたい。

2016 年 5 月 26 日（木）　全国大学史資料協議会東日本部会 2016 年度総会

東京農業大学の施設見学―「実学主義」の歴史に触れる―

國學院大學 校史・学術資産研究センター　渡邉　卓

2016 年度の全国大学史資料協議会東日本部会総会は 5 月 26 日に、東京農業大学世田谷キャンパスにて開催された。総会の後には、同大学の畑川直哉氏から 2013 年 11 月に完成した農大アカデミアセンターの施設概要について説明があり、その後、展示スペース「実学の杜」と東京農業大学「食と農」の博物館の見学が行われた。

農大アカデミアセンターは、2016 年の同大学創立 125 周年に向けた整備事業によって建設され、図書館機能を中心に大学本部機能を含む、大学の中核たる複合施設である。

総会と施設説明が行われた「横井講堂」は、

「実学の杜」を見学する参加者

初代学長である横井時敬氏の名を冠する講堂でありアカデミアセンターの地下に位置する。講堂は 72 本のヒノキの無垢柱に囲まれた、

木の香と温もりが漂う空間となっており、まさに同大学の特性を活かした施設である。また、1階には校史の展示スペース「実学の杜」が設置されている。「農大の建学の精神と教育の理念に触れる」「農大の歴史を伝える」「農大の今を知る」をキーワードとしており、同大学の人物・沿革・学問がわかりやすく展示されている。展示スペースの中央にはリラクゼーションコーナーが据えられ、学内外の訪問者が資料を見ながらくつろぐことができるようになっている。我々会員も、思い思いに展示スペースを見学し、同大学の歴史に触れることができた。

続いて、校内の横井氏の胸像などを見ながら移動し、隣接する同大学の「食と農」の博物館を見学した。2004年に開館した「見る・聞く・触る」をコンセプトとする博物館で、同大学の研究や教育の実績を広く一般に公開し、社会に還元することを目的とする。隈研吾氏の設計による4階建のなかには、1階にカフェと企画展示室、2階に常設展示室、3・4階に東京農大と連携する㈶進化生物学研究所が入っている。あいにく、見学会当日は展示替えのため企画展示室の見学が叶わなかったが、常設展だけでも見応えのあるものばかりであった。常設展には、日本の酒器、鶏の学術標本、古農具、村の古民家などが展示されるほか、常設展奥には「銘酒紹介コーナー」として、壁一面に同大学卒業生の蔵元で製造された銘酒の瓶が美しく並べられている。この圧巻の佇まいにだけでなく、全国の約8割の蔵元が同大学の卒業生であるというのには驚かされた。この他、博物館には大温室（バイオリウム）が併設され、世界中の熱帯圏から収集した希少な動植物を見ることができる。これは、他大学ではなかなか真似をすることのできない展示である。博物館入り口に展示されていたクリオネも、かわいらしく印象的であった。

今回の見学会では、同大学の特性を活かした施設や展示を通して、同大学の「実学主義」「質実剛健」や横井氏の言葉「稲のことは稲に訊け 農業のことは農民に訊け」など、大学の理念や精神を伝える展示手腕に感嘆させられるとともに、125周年を迎える同大学の歴史を学ぶ良い機会となった。

2016年7月14日（木）　研究会

帝京大学総合博物館を見学して

東洋学園大学 東洋学園史料室　永藤　欣久

東日本部会にとって節目の第100回研究会は2016（平成28）年7月14日午後2時から、帝京大学八王子キャンパス（東京都八王子市大塚）で開催された。

メディアライブラリーセンター情報学習室において冒頭、帝京大学総合博物館館長・南啓治氏より挨拶があり、引き続き同館学芸員・堀越峰之氏から1. 帝京大学の紹介（歴史）、2. 博物館設置の経緯、3. 設置に関わる諸問題とその解決、4. 館の機能（目的）、5. 設備、

6. 運営体制（組織）、7. 開館後、の 7 項目に亘り説明を受け、質疑応答の後、展示室に移動して自由に見学させていただいた。

帝京大学総合博物館は 2015 年 9 月 14 日、新たに建設されたソラティオスクエアの地下 1 階に開館した。同館の設置構想は 2010 年に遡り、2013 年 12 月に策定された「指針」によって具体化した。指針では（将来的に）博物館法の基準を満たす施設を目指しているため、施設は共用部を含め 1,430 ㎡と十分な面積を有する。設置準備から開館後の運営実務は主に学芸員（専任）2 名が担当し、その業務量は想像に余りあるが、わが国の現状に照らせば人の面でも十分な手当てがなされていると言えよう。組織上はメディアライブラリーセンター（図書館）と博物館が一体となった学術情報グループを構成している。

展示は五つの章立てによる「帝京 History」とスポーツや医学の成果を紹介する「帝京 Now」からなる「帝京大学のあゆみ」、「多摩の歴史と自然」、企画展、及び学生制作展示で構成される。一つの大きなフロアが移動式パーティションで仕切られ、フレキシブルな利用が可能な構造である。

当日は創立 50 周年企画展「50 年前の帝京大学― 1960 年代後半、多摩丘陵でのキャンパスライフ―」と「伝統人形芝居 八王子車人形の世界」を公開しており、常設展・企画展とも地域の文化、自然に半分のウェイトを置いている点、郊外型キャンパスの博物館

見学会の様子

として地域への周到な配慮を感じた。「多摩の歴史と自然」では巨大な床マップ（航空写真）に仕込まれた AR マーカーを使い、多くの学生、一般の見学者が備え付けのタブレットで楽しみながら見学していたのが印象的であった。

博物館相当施設、さらには登録博物館へ、MLA 連携、学芸員課程実習受け入れなど、全て「これから」であるが、「これから」に備えた人、組織、施設の準備は既に整っていると感じた。ゼロの段階から理想を追求し、短時日でこれだけのモノとヒト＝予算を投じた帝京大学の戦略的見地に敬意を表したい。

設立準備の段階で堀越氏が当室に来室された際、帝京大学グループ創立者・冲永荘兵衛氏の夫人で自身もグループ各校の要職を務めた冲永キン氏が本学（旧制明華女子歯科医学専門学校）卒業生との情報をもたらされた。初めて知る事実であった。夫妻の夢が実を結んだキャンパスを目の当たりにし、個人的な感想であるが、だから歴史は面白い。

全国大学史資料協議会
東日本部会 2016 年度総会議事録

日　時　2016 年 5 月 26 日（木）
　　14 時 00 分～ 14 時 50 分
会　場　東京農業大学世田谷キャンパス
　　農大アカデミアセンター地下 1 階
　　横井講堂
　　（所在地）東京都世田谷区桜丘 1-1-1

〔部会総会の成立〕

＊現会員数と出欠状況

機関会員	＜総計＞ 68	＜出席＞ 37	＜欠席届＞ 27
個人会員	＜総計＞ 37	＜出席＞ 8	＜欠席届＞ 16
総　　計	＜総計＞ 105	＜出席＞ 45	＜欠席届＞ 43

＊総会定足数は、機関会員 68、個人会員 37 の総計 105 の過半数＝ 53 である。

＊部会規約第 11 条第 5 項に基づき、欠席届を委任状とするため、出席会員数（45）と欠席届提出会員数（43）の合計は 88 となり、部会総会は成立した。

〔出席会員〕

青山学院　お茶の水女子大学　学習院
神奈川大学　関東学院　慶應義塾
國學院大學　国士舘　駒澤大学　淑徳大学
上智大学　女子美術大学　成城学園
専修大学　創価大学　大東文化大学
中央大学　帝京大学　東海大学
東京経済大学　東京女子医科大学
東京女子大学　東京農業大学　東邦大学
富山大学　日本体育大学　日本大学
法政大学　武蔵学園　武蔵野美術大学
明治学院　明治大学　明星大学　立教学院
立教大学　立正大学　早稲田大学
近藤秀二　清水善仁　谷本宗生　中村青志
林慎一郎　西山　伸　古郡信幸　細見大作
益井邦夫
（出席者合計 65 名）

〔配布資料〕

1. 総会次第
2. 2016 年度総会参加者一覧
3. 2015 年度事業報告書
4. 2015 年度収支決算書
5. 2015 年度貸借対照表・監査結果
6. 2016 年度事業計画書（案）
7. 2016 年度収支予算書（案）
8. 東日本部会規約
9. 2016 年度～ 2017 年度役員案
10. 会員名簿

開会の挨拶　小松　修氏
　　（会長　日本大学企画広報部広報課）
会場校挨拶　安井　和男氏
　　（東京農業大学図書館次長）
議長の選出　議　長　山崎　一城氏
　　（創価大学創価教育研究所）
　　副議長　谷口　　綾氏
　　（日本体育大学図書館）
議　事　1．2015 年度事業報告書・同決算報告について
　　事務局（神奈川大学）から、配布資料「2015 年度事業報告書」に基づいて、昨年度の事業報告が

あり、会計委員（専修大学）から配布資料「2015 年度収支決算書」（8 頁【表 1】）に基づいて昨年度の収支決算が報告され、満場一致で承認された。

2．2015 年度監査報告について

監査委員（武蔵野美術大学）から決算が適正であった旨の監査報告（9 頁【表 2】）があり、報告について満場一致で承認された。

3．2016 年度事業計画案・同予算案について

事務局（神奈川大学）から、配布資料「2016 年度事業計画書(案)」に基づいて、本年度事業計画案の説明があり、次いで会計委員（専修大学）・事務局（明治大学）から配布資料「2016 年度収支予算書（案）」（10 頁【表 3】）に基づいて本年度予算案が説明され、審議の結果、事業計画・予算案とも原案通り満場一致で承認された。

4．規約改正

事務局（神奈川大学）から、東日本部会の「会員資格」に関する規約改正について、改正にいたる経緯などの説明があり、審議の結果、原案通り満場一致で規約改正が承認された。

5．その他

事務局（明治大学）から、配布資料「2016 年度～ 2017 年度役員案」に基づいて、新役員の説明があり、満場一致で承認された。

閉会の挨拶　池原　治氏

（新会長　神奈川大学大学資料編纂室）

見学会

説　明　　畑川　直哉氏

（東京農業大学図書館事務課）

「農大アカデミアセンター施設概要について」

見　学　　農大アカデミアセンター 1 階展示スペース「実学の杜」

「食と農」の博物館

〔概要〕　2016 年度部会総会の見学会は、会場校である東京農業大学の展示スペース「実学の杜」と「食と農」の博物館を見学した。まず「実学の杜」は、「農大アカデミアセンター」の 1 階に設置された展示室で、2014 年 4 月に開館した。創立者・榎本武揚、初代学長・横井時敬の関連資料や研究成果のパネル掲示など、同大学の歴史を現在にいたるまで概観することができる。また展示室は、キャンパス来訪者への公開スペースともなっている。

続いて見学した「食と農」の博物館は、「見る・聞く・触る」をコンセプトとした体験型博物館であり、1 階に企画展示、映像展示、大学関連コーナー等、2 階には常設展室があり、同大学独自の研究成果が展示公開されている。また展示温室「バイオリウム」が隣接され、主に

【表 1】

全国大学史資料協議会東日本部会
2015 年度収支決算書
2015 年 4 月 1 日～ 2016 年 3 月 31 日

【収　入】　（単位：円）

項　目	予　算	決　算	差　異	摘　要
会費収入	1,490,000	1,525,000	△ 35,000	
法人等会員	1,320,000	1,340,000	△ 20,000	67 機関分× 20,000 円
個人会員	170,000	185,000	△ 15,000	36 名分× 5,000 円＋ 2014 年度分 1 名 5,000 円
利息収入	1,000	970	30	
預貯金利息	1,000	970	30	預金利息
参加費収入	430,000	495,000	△ 65,000	
部会総会参加費	180,000	210,000	△ 30,000	70 名分× 3,000 円　（6 月 3 日　早稲田大学）
全国総会参加費	250,000	285,000	△ 35,000	57 名分× 5,000 円　（10 月 7 日～ 9 日　東北大学 他）
雑収入	0	0	0	
合　計	1,921,000	2,020,970	△ 99,970	

【支　出】　（単位：円）

項　目	予　算	決　算	差　異	摘　要
運営費支出	100,000	82,316	17,684	
総会費	30,000	65,520	△ 35,520	会場使用料（東北大学）
幹事会費	20,000	15,596	4,404	コピー代、飲料代
部会研究会費	50,000	1,200	48,800	飲料代
謝礼支出	100,000	22,274	77,726	
講師謝礼等	100,000	22,274	77,726	全国研究会講演会
消耗品費支出	10,000	8,871	1,129	
消耗品費	10,000	8,871	1,129	
印刷費支出	450,000	459,540	△ 9,540	
印刷費支出	450,000	459,540	△ 9,540	会報 No.52（昨年度未払金）・53・54、長 3 封筒
通信費支出	140,000	135,446	4,554	
事務連絡費	140,000	135,446	4,554	切手、宅配便利用料金
手数料支出	10,000	11,772	△ 1,772	
手数料等	10,000	11,772	△ 1,772	金融機関送金手数料
参加費支出	500,000	562,537	△ 62,537	
総会参加費	500,000	562,537	△ 62,537	情報交換会、懇親会費、観覧料（西日本分担金 158,491 円）
旅行交通費支出	200,000	109,634	90,366	
事業費支出	4,700,000	4,076,640	623,360	
出版事業	300,000	315,166	△ 15,166	叢書 16 号、叢書 17 号（反訳）、リーフレット（西日本分担金 14,486 円）
その他	3,400,000	2,800,894	599,106	大学史展実行委員会
ホームページ事業	1,000,000	960,580	39,420	西日本分担金 485,776 円
30 周年記念事業積立金繰入支出	0	0	0	
予備費	50,000	－	50,000	
合　計	6,260,000	5,469,030	790,970	
当年度収支差額	△ 4,339,000	△ 3,448,060	－	
前年度繰越収支差額	4,963,398	4,963,398	－	
翌年度繰越収支差額	624,398	1,515,338	－	

【表 2】

2015 年度貸借対照表

2016 年 3 月 31 日

【資　産】　（単位：円）

項　　目	本年度末	前年度末	増　減	摘　　要
30 周年記念事業積立金	2,500,000	2,500,000	0	三井住友銀行　経堂支店普通預金
銀行預金	1,477,887	4,941,147	△ 3,463,260	
三井住友銀行	1,477,887	4,941,147	△ 3,463,260	三井住友銀行　経堂支店普通預金
現金	37,451	22,251	15,200	
会　計　校	6,075	5,020	1,055	専修大学
事　務　校	30,000	15,855	14,145	明治大学
事　務　校	1,376	1,376	0	神奈川大学
合　　計	4,015,338	7,463,398	△ 3,448,060	

【負債・収支差額】　（単位：円）

項　　目	本年度末	前年度末	増　減	摘　　要
負債	2,500,000	2,500,000	0	
30 周年記念事業引当金	2,500,000	2,500,000	0	
収支差額	1,515,338	4,963,398	△ 3,448,060	
収 支 差 額	1,515,338	4,963,398	△ 3,448,060	
合　　計	4,015,338	7,463,398	△ 3,448,060	

2016 年 4 月 1 日

上記の通り報告します。

会計委員　専修大学　　瀬戸口龍一　㊞

専修大学　　石綿　豊大　㊞

東海大学　　椿田　卓士　㊞

2016 年 4 月 19 日

監査の結果、適正と認めます。

監査委員　大東文化大学　　浅沼　薫奈　㊞

武蔵野美術大学　　千羽　一郎　㊞

【表 3】

全国大学史資料協議会東日本部会

2016 年度収支予算書（案）

2016 年 4 月 1 日～ 2017 年 3 月 31 日

【収　入】　（単位：円）

項　　目	2016 年度予算	2015 年度予算	増　減	摘　　要
会費収入	1,520,000	1,490,000	30,000	
法人等会員	1,320,000	1,320,000	0	66 機関@ 2 万円（2015 年度 67 機関）
個人会員	200,000	170,000	△ 30,000	40 名（2016 年度 38 名 @5 千円、2015 年度未納 2 名 @5 千円）
利息収入	1,000	1,000	0	
預貯金利息	1,000	1,000	0	銀行利息
参加費収入	445,000	430,000	15,000	
部会総会参加費	195,000	180,000	15,000	65 名　@ 3,000 円（2015 年度 早稲田大学 70 名）
全国総会参加費	250,000	250,000	0	50 名　@ 5,000 円（2015 年度 東北大学 他 57 名）
雑収入	0	0	0	
合　計	1,966,000	1,921,000	45,000	

【支　出】　（単位：円）

項　　目	2016 年度予算	2015 年度予算	増　減	摘　　要
運営費支出	120,000	100,000	20,000	
総会費	50,000	30,000	20,000	会場費・非課税講師交通費
幹事会費	20,000	20,000	0	会場費・設備使用料 他
部会研究会費	50,000	50,000	0	会場費・入場料・茶代 他
謝礼支出	100,000	100,000	0	
講師謝礼等	100,000	100,000	0	講演料、原稿料、源泉税、課税交通費
消耗品費支出	10,000	10,000	0	
消耗品費	10,000	10,000	0	事務消耗品費
印刷費支出	350,000	450,000	△ 100,000	
印刷費支出	350,000	450,000	△ 100,000	会報印刷費（年 2 回分）、角 2 封筒印刷費
通信費支出	120,000	140,000	△ 20,000	
事務連絡費	120,000	140,000	△ 20,000	会員連絡費、会報送料（年 2 回分）他
手数料支出	10,000	10,000	0	
手数料等	10,000	10,000	0	金融機関振込手数料他
参加費支出	600,000	500,000	100,000	
総会参加費	600,000	500,000	100,000	情報交換会費その他（5 月部会総会、10 月全国総会）
旅費交通費	0	200,000	△ 200,000	
事業費支出	600,000	4,700,000	△ 4,100,000	
出版事業	300,000	300,000	0	叢書編集印刷、リーフレット印刷、その他
その他	0	3,400,000	△ 3,400,000	
ホームページ事業	300,000	1,000,000	△ 700,000	維持管理金
ホームページ改善積立金	200,000	0	200,000	
30 周年記念事業積立金繰入支出	0	0	0	
予備費	50,000	50,000	0	
合　計	2,160,000	6,260,000	△ 4,100,000	

当年度収支差額	△ 194,000	△ 4,339,000	―	
前年度繰越収支差額	1,515,338	4,963,398	―	
翌年度繰越収支差額	1,321,338	624,398	―	

マダガスカルの動植物の生態を見ることができる。見学した展示室・博物館いずれも、広く一般に公開されており、展示内容もさることながら情報発信の方法の素晴らしさに触れることができた。　（渡邉卓）

情報交換会　グリーンアカデミーホールにおいて情報交換会を開催した。東京農業大学図書館次長の安井和男氏から開催の挨拶が、名誉会員の益井邦夫氏から乾杯の発声があった。司会・進行は、立教学院展示館の本田希美子氏が務めた。新規入会会員、初参加会員等の挨拶があり、和気あいあいの雰囲気のなか情報交換会が行われた。最後に、司会から閉会の挨拶があり、情報交換会を終了した。

全国大学史資料協議会
東日本部会幹事会議事録

第154回　2016年3月10日（木）
12時30分～13時20分

会　場　明治大学生田キャンパス
第一校舎6号館　204教室
（所在地）神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1

出　席　学習院　神奈川大学　國學院大學
専修大学　大東文化大学　東海大学
日本大学　法政大学
武蔵野美術大学　明治大学
立教学院　西山　伸

議　題（1）2016年度部会総会について
・事務局（明治大学）より、5月26日（木）東京農業大学（世田谷キャンパス）にて行う旨、報告があった。担当の立教学院と今後連携して進めることとなった。

（2）2015年度研究会及び2016年度研究会アンケートについて
・担当（武蔵野美術大学）より、本日開催の第99回研究会進行について、確認があった。
・事務局（神奈川大学）より、2016年度研究会アンケートのウェブ回答について、協力依頼があった。

（3）2016～2017年度　役員改選について
・事務局（神奈川大学）より、作案経緯、新規運営委員候補の紹介があった。事務局（明治大学）より、幹事改選案の説明があった。審議の結果、次回第155回幹事会にて、一部再提案することとなった。

（4）2016年度予算案について
・事務局（神奈川大学）より説明があり、会計委員（専修大学）への予算要望が寄せられた。会員より、第100回研究会を記念しての企画要望があること、他の会員より研究会まとめ冊子作成の要望があることが紹介された。第100回研究会の記念企画は、今後検討することとした。

（5）その他

・事務局（神奈川大学）より、不破聖子氏の個人会員入会申し込みについて報告があり、2016 年 4 月 1 日付けでの入会を承諾した。

・事務局（神奈川大学）より、機関会員・成蹊学園および個人会員 1 名の 2016 年 3 月 31 日付け退会について報告があった。

・事務局（神奈川大学、明治大学）より、ある個人会員による郵送物発送問題の経緯、第 153 回幹事会及びその後の対応（規約細則の制定、内容証明郵便による書面注意、口頭注意）と当該個人会員の反応について説明があった。

・担当（國學院大學）より、会報・叢書の編集状況について報告があった。

第 155 回　2016 年 4 月 21 日（木）
14 時 00 分～ 16 時 45 分

会　場　明治大学駿河台キャンパス
グローバルフロント 17 階 C5 会議室
（所在地）東京都千代田区神田駿河台 2-1

出　席　学習院　神奈川大学　國學院大學
専修大学　大東文化大学　東海大学
日本大学　法政大学
武蔵野美術大学　明治大学
立教学院

議　題（1）2016 年度東日本部会総会について

・事務局（明治大学）および部会総会担当の立教学院から、部会総会の次第・案内案等の説明があり、承認した。

・事務局（神奈川大学）から、部会総会資料の事業報告書および事業計画書（案）の説明があり、引き続き検討することにした。

（2）2016 年度～ 2017 年度　役員改選案について

・事務局（神奈川大学）から、配布資料に基づき次期役員改選案の説明があった。承認し、部会総会に諮ることにした。

（3）2016 年度研究会分担・アンケートについて

・事務局（神奈川大学）から、研究会および研究会記録などの幹事分担案の説明があり、承認した。分担の変更などは都度調整することにした。次いで、研究会に関するアンケートの集計結果の報告があった。

・事務局（明治大学）から、研究会に関するアンケートの集計結果に基づき、2016 年度の研究会テーマについて提案があり、検討の結果、テーマを「大学アーカイヴズの可能性」とすることにした。

・事務局（明治大学）および 7 月研究会担当の学習院から、第 100 回の開催となる当該月の研究会は帝京大学にて開催する提案

があり、承認した。

（4）2015 年度決算・2016 年度予算編成について

・会計委員（専修大学）から、2015 年度決算の報告があり承認した。

・会計委員（専修大学）から、2016 年度予算について説明があり、各担当から増減要望があった。事務局（神奈川大学・明治大学）から、ウェブシステム関連予算の提案があり、明治大学が説明を行なった。承認のうえ、検討をふまえた予算案を持ち回り審議とすることにした。

（5）2016 年度、2017 年度総会ならびに全国研究会について

・事務局（明治大学）から、2016 年度総会ならびに全国研究会について、広島大学における開催と日程などの確認があった。東日本部会からの報告者選定などはおって検討することにした。

・事務局（明治大学）から、東日本部会担当の 2017 年度総会ならびに全国研究会について、会場などの提案があり、例として、中京圏での開催案が紹介された。

（6）東日本部会規約改正案について

・事務局（神奈川大学）から、規約改正の提案に至った説明があり、改正案を検討した。種々意見が出され、持ち回り審議を活用し引き続き検討することにした。

（7）その他

・事務局（神奈川大学）から、お茶の水女子大学の機関会員入会について、持ち回り審議にて承認された旨の報告があった。

・事務局（神奈川大学）から、個人会員 2 名の退会について報告があった。

・会報・叢書編集担当の國學院大學から、会報『大学アーカイヴズ』第 54 号の刊行と叢書の編集状況についての報告があった。

・事務局（明治大学）から、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会会誌『記録と史料』第 26 号に第 2 回全国大学史展に関する依頼原稿を掲載したとの報告があった。

・事務局（明治大学）から、会誌『記録と史料』第 26 号の掲載原稿について、PDF データによる公開許諾依頼の説明があり、承認した。

・事務局（明治大学）から、企業史料協議会の連携協力依頼について説明があり、具体的な提案があり次第、連携の可否について検討することにした。

・事務局（明治大学）から、第 98 回研究会を共催した法律学校研究会刊行の同研究会報告書の配布依頼について説明があり、東日本部会総会にて配布することを承認した。

・事務局（明治大学）から、2016

年 4 月発生の熊本地震について、関係会員校へ情報提供の依頼や支援等の検討を行ないたい旨の提案があり、承認した。

第 156 回　2016 年 5 月 26 日（木）
12 時 30 分～ 13 時 13 分

会　場　東京農業大学　世田谷キャンパス
農大アカデミアセンター地下 1 階
横井講堂
（所在地）東京都世田谷区桜丘
1-1-1

出　席　学習院　神奈川大学　國學院大學
専修大学　大東文化大学　東海大学
日本大学　法政大学
武蔵野美術大学　明治大学
立教学院　西山　伸

進　行　事務局　神奈川大学　齊藤　研也

挨　拶　会長校　日本大学　　小松　修

挨　拶　武蔵野美術大学・千羽一郎氏より、組織変更による帰任および異動の挨拶があった。

黙　祷　議事に先立ち、個人会員であった故中村治人氏（3 月 20 日逝去）を追悼し、出席者全員で黙祷を捧げた。

議　題（1）2016 年度東日本部会総会・規約改正案について
・事務局（神奈川大学）より、本日の総会次第・担当者について確認があった。規約改正案の持ち回り審議について確認があり、一部変更の上、総会に提案することを承認した。

（2）2016 年度総会ならびに全国研究会について
・担当（明治大学）より、2016 年 10 月 6 日（木）～ 8 日（土）広島大学東広島キャンパス（広島県東広島市）で開催予定である旨、確認があった。宿泊施設について、確保に留意されたいことの情報提供があった。

（3）2016 年度研究会について
・担当（学習院）より、第 100 回東日本部会研究会を 2016 年 7 月 14 日（木）帝京大学総合博物館にて開催する旨、説明があり、承認した。

（4）2017 年度総会ならびに全国研究会について
・事務局（明治大学）より、次期開催候補地について説明があった。次期幹事会へ引き継ぐことを承認した。

（5）その他
・事務局（神奈川大学）より、東北文化学園大学の機関会員入会申し込みによる持ち回り審議について報告があり、入会承諾したことの確認があった。
・事務局（神奈川大学）より、民間企業の機関会員入会申し込みによる持ち回り審議について報告があった。民間企業による機関会員への入会は慎重を要するとの意見が多く、入会を承諾しなかった

ことの確認があった。民間企業の当部会入会制度については、今後の検討課題とした。

・事務局（神奈川大学）より、林慎一郎氏、松田栄作氏、近藤秀二氏の個人会員入会申し込みによる持ち回り審議について報告があり、入会承諾したことの確認があった。

・事務局（神奈川大学）より、個人会員1名の2016年5月10日付け退会について報告があった。

・担当（國學院大學）より、会報編集状況について報告があった。

第157回　2016年7月14日（木）
12時30分～13時25分

会　場　帝京大学　八王子キャンパス
メディアライブラリーセンター（図書館）2階情報学習室1
（所在地）東京都八王子市大塚359

出　席　学習院　神奈川大学　國學院大學
大東文化大学　東海大学
東京農業大学　日本体育大学
日本大学　法政大学
武蔵野美術大学　明治大学
古郡信幸

議　題（1）2016年度東日本部会総会の総括について

・前事務局校及び会場校より、運営上特段問題がなかった旨の報告があった。

（2）2016年度総会・全国研究会について

・事務局より、全国大会の概要、テーマ、西日本部会の報告内容について報告がなされた。併せて、東日本部会の報告者選定の経緯について報告がなされた。

・東日本部会の報告者である東海大学椿田氏より、報告の構想について紹介があった。

（3）2016年度研究会について

・10月の全国研究会及び12月の研究会の担当者と進捗状況が確認された。

・12月と1月の研究会担当校および記録担当校が重複するため、担当の順番を入れ替えることが決定された。

（4）2017年度総会・全国研究会について

・愛知大学を会場として開催する準備を進めている旨、報告がなされた。協議会から愛知大学へ依頼状を送付すること、開催日程は愛知大学へ一任とすることが確認された。

（5）その他

・企業の機関会員としての入会について意見交換を行った。

・駒澤大学図書館情報サービス課情報資料係・松下賢氏から、アーカイブズ部署設置に関する協力要請が有ったこと、および事務局からの回答内容について報告がなされた。

第 158 回　2016 年 9 月 28 日（木）
14 時 00 分～ 15 時 30 分
会　場　明治大学駿河台キャンパス
大学会館 3 階第 2 会議室
出　席　学習院　神奈川大学　國學院大學
大東文化大学　東京農業大学
日本体育大学　日本大学　法政大学
武蔵野美術大学　明治大学
古郡信幸
議　題（1）2016 年度総会ならびに全国研究会について
・事務局より出欠状況について報告がなされた。
・東日本部会の役割分担について協議がなされた。
・個人会員より申し入れのあった、学内誌への大会参加記掲載について了承した。
・西日本部会からの申し入れにより、情報交換会出席予定者に二次会への出欠を問うこととした。
（2）2016 年度研究会について
・第 102 回、第 103 回、第 104 回の開催案について協議した。
（3）研究叢書について
・発送が完了したことが報告された。
（4）その他
①第 10 回資料保存シンポジウムの後援名義使用について報告がなされた。
②会員の入退会状況および会費納入状況について報告がなされた。
③会員外への謝金について
・謝金の支払いおよび源泉徴収額の取り扱いについて協議した。
・謝金に関する取り決めの文案を、会計校が作成することとなった。
④会報について
・編集進捗について報告がなされた。
・発送用封筒の増刷が了承された。
⑤ HP サポート契約について、半年間の契約更新が了承された。
⑥元個人会員の送付物について
・元個人会員より、以前と同様の送付物が複数の大学へ送付されているとの報告がなされた。送付があった場合、事務局に情報を集約することとなった。

全国大学史資料協議会
東日本部会研究会記録

第 99 回　2016 年 3 月 10 日（木）
14 時 00 分～ 17 時 00 分
会　場　明治大学生田キャンパス
第一校舎 6 号館 204 教室
出　席　学習院　神奈川大学　國學院大學
国際基督教大学　国士舘　淑徳大学
女子美術大学　専修大学　創価大学
大東文化大学　中央大学　東海大学
東京農業大学　東洋英和女学院
東洋学園大学　日本体育大学
日本大学　法政大学
武蔵野美術大学　明治大学

立教学院
石田順二　益井邦夫　松崎　彰
西山　伸　古郡信幸
（以上 37 名）

会長挨拶　小松　修
（日本大学広報部大学史編纂課）

司　会　　太田　英輝
（武蔵野美術大学大学史史料室）

研究会テーマ　明治大学平和教育登戸研究所資料館見学 & 明治大学生田キャンパス史跡めぐり

講　師　山田　朗
（明治大学平和教育登戸研究所資料館館長・明治大学文学部専任教授）

〔概要〕　明治大学生田キャンパス内に 2010 年に開館された「明治大学平和教育登戸研究所資料館」の見学研究会が催された。最初に、山田朗館長（文学部教授）より資料館設立の経緯と活動・運営についての講演があった。資料館の前身である「第九陸軍技術研究所」の戦前の沿革、戦後の施設保存と資料館の建設に至る経緯や現状の問題点について、詳細な説明がなされた。講演後、参加会員は山田館長の案内にてキャンパス内に今も残る慰霊碑や神社・石碑等の遺跡を見学。続いて資料館に移動し、山田館長の説明を受けながら館内展示を見学した。見学後は会場に戻り、質疑応答に移った。質疑では大学機関における戦争遺産の保存管理について、とりわけ設備の維持管理や経費面の問題に関する質問が多く寄せられた。山田館長は、戦争遺産の保存・運営の難しさとあわせて、市民の理解と支援があったことも述べ、また将来的な文化財としての有用性についても指摘された。

（椿田卓士）

第 100 回　2016 年 7 月 14 日（木）
14 時 00 分～ 16 時 30 分

会　場　帝京大学八王子キャンパス
メディアライブラリーセンター
2 階情報学習室 1、総合博物館

出　席　青山学院　学習院　神奈川大学
國學院大學　芝浦工業大学
淑徳大学　大東文化大学
中央大学　帝京大学　東海大学
東京農業大学　東洋学園大学
獨協学園　日本体育大学
日本大学　法政大学
武蔵野美術大学　明治学院
明治大学　立教学院　立正大学
早稲田大学
近藤秀二　坂口貴弘　林慎一郎
藤田　茂　古郡信幸
（以上 38 名）

会長挨拶　池原　治
（神奈川大学大学資料編纂室）

司　会　　桑尾　光太郎
（学習院アーカイブズ）

研究会テーマ　帝京大学総合博物館見学

会場校挨拶　南　啓治
（帝京大学総合博物館館長）

報　告　堀越　峰之

（帝京大学総合博物館学芸員）

〔概要〕　東日本部会 100 回目となる研究会が帝京大学メディアライブラリーセンターで開催された。はじめに帝京大学総合博物館南啓治館長より挨拶があり、続いて同館学芸員の堀越峰之氏より「帝京大学博物館設立の経緯、活動の概要」と題した報告があった。同大学では年史編纂及び学内資料調査などの大学史資料の蓄積がなかったため、博物館の基本構想を一から吟味した上で、短い準備期間の後、平成 27 年 9 月に開館したとのことであった。その後、総合博物館展示室に移動し、堀越氏からの説明の後に展示施設を見学した。企画展は大学史展示である「50 年前の帝京大学～ 1960 年代後半、多摩丘陵でのキャンパスライフ～」と、「伝統人形芝居　世界にはばたく！八王子車人形の世界」の 2 つが開催されていた。常設展は帝京大学の歴史、現在の教育研究活動・部活動コーナーとともに、キャンパス隣接地域に焦点を当てた「多摩の歴史と自然」のコーナーが印象的であった。

（松原太郎）

訃　報

東日本部会個人会員の中村治人さんが 2016 年 3 月 20 日に逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

ご　案　内

全国大学史資料協議会および同協議会東日本部会に関するお問い合わせ、入会申し込みは、下記へご連絡ください。

【専修大学　総務部大学史資料課】
〒 101-8425
東京都千代田区神田神保町 3-8
☎　03-3265-5879

【立教学院　立教学院展示館】
〒 171-8501
東京都豊島区西池袋 3-34-1
☎　03-3985-4841

会報編集

【國學院大學　校史・学術資産研究センター】
〒 150-8440
東京都渋谷区東 4-10-28
☎　03-5466-6677